明治、商

〔Ⅰ〕 次の文章をよく読み，下記の設問に答えなさい。

中国の歴代王朝は華夷思想に基づいた秩序[a]を築いて東アジアの政治，文化，経済の中心に位置し，清朝はその支配領域を歴代王朝史上最大にまで拡張した。しかし1842年の南京条約によって香港島を割譲させられた清朝は，さらに貿易を管理する公行の廃止，治外法権，協定関税などを，欧州列強により次々と認めさせられた。軍事力と経済力を背景とした英仏などの列強諸国が，中国に勢力を伸ばし始めたのである。清朝の官僚であった曾国藩・李鴻章・左宗棠らは，中体西用の理念によって富国強兵を目指して1860年頃から［ア］を展開し，軍需産業や電信事業を興し，鉱山開発などを行った。しかし，この［ア］は，国家や社会の制度の根本的改革を目指すものではなかった。

ア、洋務運動

1894年，朝鮮半島をめぐって，清朝と東アジアで一足早く近代的改革を進めていた日本の間で戦争が勃発した。清朝が敗北し下関条約が結ばれると，東アジアにおける中国の地位は急速に低下していった。下関条約では，朝鮮国の独立，遼東半島・台湾・［イ］の割譲，賠償金の支払い，通商上の特権付与，開港場での企業設立などを日本に認めさせられた。その結果，最恵国待遇を有する欧米列強も，清朝領土内での鉄道敷設・鉱山採掘などの利権獲得競争に乗りだした。また，1898年にドイツは膠州湾を，同年にロシアは遼東半島南部を，イギリスは威海衛と九竜半島を，フランスは1899年に広州湾を租借した。これら列国はそれぞれを拠点に勢力範囲を拡大し，中国は分割の危機に直面した。

イ、澎湖諸島

この頃，日本の明治維新にならって根本的な制度改革を提唱する［ウ］らが台頭し，1898年に光緒帝を説得して［エ］を断行させた。［ウ］やその教えをうけた梁啓超らは，後に保皇派と呼ばれ，明治憲法体制下の日本のような立憲君主制を目指していた。しかし，保守派がクーデタ[b]を起こし，改革は3ヶ月あまりで頓挫した。一方で，海外の華僑や留学生を中心に，漢人による清朝打倒を目指す革命運動が盛んとなっていき，1905年には東京で孫文が中国同盟会を組織した。1911年には湖北省の［オ］で革命派が蜂起して辛亥革命がはじまり，革命軍は孫文を臨時大総統に選出すると，1912年1月に南京でアジア初の共和国となる中華民国が成立した。

ウ、康有為
エ、戊戌の変法
オ、武昌

一方，オスマン帝国は16世紀までにアジア，ヨーロッパ，アフリカへと領土を拡大したが，1683年の［カ］の失敗後，領土は拡大から縮小へと転じた。19世紀以降は，オスマン帝国内での自立の動きが強まり，ギリシアは1829年，ルーマニアは1878年，ブルガリアは1908年にオスマン帝国から独立した。これら自立の動きは，列強のオスマン帝国内への勢力伸長に利用された。

カ、第二次ウィーン包囲

イギリスが1838年にトルコ＝イギリス通商条約（オスマン＝イギリス条約）を結ぶと，ヨーロッパ列強も次々と不平等条約を結び，オスマン帝国への経済進出を図った。また，ナポレオンの遠征によってエジプトを占領したフランスは，まもなくイギリスとオスマン帝国の連合軍に敗北したが，この機に乗じて［キ］がエジプト総督となった。［キ］は，フランスの援助によって陸海軍を創設し，さらに産業振興，教育制度改革などを行いエジプトの富国強兵を進め，二度にわたるエジプト＝トルコ戦争に勝利した。列強によるオスマン帝国の経済支配と分割の危機が迫る中，［ク］（在位1839－61）は，タンジマートと呼ばれる西欧化改革を行い，法治主義に基づく近代国家へと体制をあらためた。1876年にはミドハト＝パシャの起草した憲法が発布され，オスマン帝国は立憲制を樹立した。

キ、ムハンマド＝アリー
ク、アブドゥル＝メジト1世

しかし，ボスニア＝ヘルツェゴヴィナでの農民反乱やブルガリア独立蜂起を支援するロシアが，1877年にオスマン帝国に開戦すると，［ケ］（在位1876－1909）は，1878年にこれを口実に議会を閉鎖し憲法を停止した。これに不満を抱く青年知識人・将校らは「青年トルコ人」とよばれ，スルタンの専制政治に反対して1889年に「［コ］」を結成した。「［コ］」の中心となった「青年トルコ人」は，1908年の青年トルコ革命によって憲法を復活させ政権を握った。この間にトルコ民族主義の高まりが見られた。

ケ、アブドゥル＝ハミト2世
コ、統一と進歩委員会

この頃，清朝やオスマン帝国など旧来の王朝や帝国は，経済力と軍事力をたくわえた西欧列強やアメリカ，日本によって，不平等条約のもと法的・経済的従属を強いられ，国力が衰退する中でかつての勢力圏を植民地として分割，侵食されていった。このような世界情勢をマルクス主義に基づいて分析したのがレーニンである。1917年のロシア革命を指導したレーニンは，その著書『帝国主義』（1917年）の中で，中国やトルコを，政治的には形式上独立国でありながら，実際には

金融上および外交上の従属の網でおおわれている半植民地であると指摘した。1920年7月には，レーニンの主導により第2回コミンテルン代表大会で「民族と植民地問題に関するテーゼ」が採択された。この「テーゼ」においては，先進国のプロレタリア階級と植民地や属国の労働者大衆が，一致して資本主義打倒のための革命闘争を行うべきであると述べられた。コミンテルンは，植民地や半植民地におけるコミンテルン支部としての共産党設立を支援し，1921年には中国共産党が成立していた。また，イギリスの中東地域への勢力拡張[c]を望まないソヴィエト連邦は，1920年頃にはトルコ共産党を支援していた。

民族主義に基づく中国同盟会を組織した孫文は，これを国民党に改組したが，袁世凱[d]によって弾圧され解散させられた。その後，孫文は，中華革命党を結成し，1919年にこれを改組して中国国民党を成立させた。孫文は1924年にソ連の援助を受け入れて，共産党と協力して軍閥打倒，帝国主義打倒を目指す路線を打ち出した。これは，民族運動と共産主義運動を結合させるコミンテルンの方針に沿ったものである。

トルコでは，1919年にムスタファ＝ケマル[e]がトルコ大国民議会を組織して，1922年にスルタン制を廃止し，1923年にトルコ共和国を成立させた。この間に，ムスタファ＝ケマルは，ソ連と協力する姿勢を一時見せてコミンテルンの協力を引き出した。しかし，トルコ共産党の指導者ムスタファ＝スプフィは暗殺された。その後ムスタファ＝ケマルは，ソ連・コミンテルンとは一線を画し，民族主義に立脚しつつ西欧型の近代国家建設を推進した。

設問 1　文中の空欄（ア～コ）にもっとも適する語句を記入しなさい。

設問 2　文中の下線部（a～e）に関する下記の設問に答えなさい。

a　この秩序の下で，中国の皇帝が近隣の君主に官職と爵位を授与することを何というか記しなさい。冊封

b　保守派と結んでこのクーデタを実行した清朝宮廷の中心人物の名前を記しなさい。西太后

c　アラブ人がオスマン帝国への反乱を企てることを条件に，イギリスがパレスチナでのアラブ人国家樹立を約束した取り決めを何というか記しなさい。フサイン＝マクマホン協定

d　この人物が1912年に中華民国臨時大総統として公布した暫定憲法を何というか記しなさい。臨時約法

e　1934年，トルコ共和国の大国民議会がこの人物に付与した尊称を何というか記しなさい。

アタテュルク（アタトゥルク）

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み，文中の空欄(1～10)にもっとも適する語句を記入しなさい。

ハプスブルク家は，婚姻関係を通じて15世紀後半にネーデルラントを獲得したが，この領土はその後，スペイン＝ハプスブルク家の領土となった。商工業の発達した北部には，カルヴァン派の新教徒が多く，1568年，カトリック化をおしすすめるスペインに対する反乱が勃発した。北部7州は1579年に [1] を結んでスペインと対抗し，1581年にはネーデルラント連邦共和国の独立を宣言した。カトリック教徒が多かった南部10州はスペイン領のままにとどまり，現在のベルギーとなっている。15世紀以降国際中継貿易の中心地であったフランドルの [2] は，スペイン軍の占領により，多くの商工業者が北部へと亡命したため衰退してしまった。

1、ユトレヒト同盟

2、アントウェルペン

19世紀のアメリカ合衆国では，奴隷制をめぐって南北の意見が対立し，国を南北に分ける戦争が勃発した。奴隷制の存続と自由貿易，州の自治を求める南部の奴隷州と，奴隷制に反対し，保護関税政策と連邦主義を主張する北部の自由州の対立は，1860年に共和党のリンカンが大統領に当選すると激化した。南部諸州は1861年にアメリカ連合国を結成し，[3] を大統領に選び，ここに南北戦争がはじまった。戦いは1863年のゲティスバーグの戦いにおける北軍の勝利を契機に北軍が優勢となり，65年に南部の首都 [4] が陥落して南軍は降伏し，合衆国は再統一された。

3、ジェファソン＝デヴィス

4、リッチモンド

第二次世界大戦後のヨーロッパでは米ソ両大国を中心とする東西両陣営の対立が深まったが，それを象徴的にあらわしたのが，ドイツの東西分裂であった。1948年，米・英・フランス占領地区における通貨改革を契機として東西対立が激化した。西側占領地区は1949年，ボンを首都とするドイツ連邦共和国(西ドイツ)となり，キリスト教民主同盟の [5] 首相のもとで経済復興をはたし，1954年のパリ協定で主権を回復した。一方，ソ連占領地区も1949年，社会主義統一党を中心に東ベルリンを首都とするドイツ民主共和国(東ドイツ)の成立を宣言し，ドイツの分立が決定した。しかし1989年，東ドイツで西側への脱出者が急増したことから，国家元首である [6] 書記長が退陣した。11月に

5、アデナウアー

6、ホネカー

はベルリンの壁が解放され，東西ドイツ間の自由な行き来がみとめられ，1990年に両国は再統一をはたした。

第二次世界大戦中のフランス領インドシナでは，ホー＝チ＝ミンが日本の占領下に [7] を組織し，日本の降伏直後ベトナム民主共和国の独立を宣言した。しかし，フランスはこれを認めず，ベトナム民主共和国との間でインドシナ戦争にはいり，1949年にはベトナム国を発足させた。1954年，ディエンビエンフーで大敗したフランスは，ベトナム民主共和国と [8] 休戦協定を結んでインドシナから撤退したが，ベトナムは北緯17度線を暫定的軍事境界線とし，南北に分断された。その後，ベトナムでは統一をめぐる内戦にアメリカが介入し，ベトナム戦争をひきおこした。そして，1973年のアメリカ軍のベトナム撤退後の1976年，南北を統一したベトナム社会主義共和国が成立した。

7、ベトミン

8、ジュネーブ

第二次世界大戦中に戦後の独立が承認されていた朝鮮では，戦後北緯38度線を境に，北側をソ連が，南側をアメリカが占領下においた。1948年にアメリカから帰国した [9] を大統領に大韓民国(韓国)が南部に成立すると，北部でも金日成を首相とする朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)が成立し，朝鮮半島は南北に分断された。1950年6月，北朝鮮軍が南北統一をめざして38度線をこえて侵攻すると，国連安全保障理事会はソ連が理事会をボイコットするなかでこれを侵略と認め，国連軍の派遣を決定した。以後，38度線をはさんで攻防が続いたが，1953年，休戦協定が成立し，南北朝鮮の分断が固定化された。この朝鮮戦争を機に，アメリカ合衆国のアイゼンハワー大統領は，1953年にダレス国務長官が発表した「 [10] 」を掲げ，反共的な外交政策をすすめたため，米ソの冷戦は激化していった。

9、李承晩

10、巻き返し政策

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み，下線(1～10)に関連するそれぞれの問(1～10)にもっとも適するものを(A～D)の中から一つ選び，解答欄にマークしなさい。

製紙，羅針盤，火薬，印刷は中国人が四大発明と称する画期的なテクノロジーとされている。そのうち製紙は，後漢の宦官[1]蔡倫が製紙法を発明し，105年に和帝に紙を献上したことが伝えられ，彼が製紙法の発明者とされてきた。しかし20世紀になると，中央アジアの砂漠地帯でイギリスの考古学調査団が105年よりも前に作られた大量の紙を発見し，紙はそれ以前から作られていたことがあきらかにされている。現存する世界最古の紙は，紀元前150年頃に中国で作られたものと推測されている。

紙が発明されるまで，書写素材としては，中国では獣骨や亀甲，石，木簡・竹簡，帛(はく)(薄い絹織物)が，メソポタミアでは粘土板が，エジプトではパピルスが，小アジアのペルガモン[2]では羊皮紙が広く使われていた。これらのうち，帛は中国や日本で，羊皮紙は西アジアやヨーロッパ等の各地で比較的長くもちいられたが，紙が普及するにつれ，多くは書写素材としての役割を終えていった。しかし，多くのヨーロッパの言語で紙を意味する語は，「パピルス」あるいはギリシア語でパピルスを意味する「カルテス」を語源としている。

中国で発明された紙は，東は朝鮮半島を経て日本に渡り，シルクロードをつたわって西へと伝播していった。中央アジアのサマルカンドは8世紀に製紙の一大中心地となった。製紙の技術がサマルカンドに伝わった経緯に関しては，751年に唐の高仙芝を破ったイスラーム軍の指揮官によって捕虜にされた中国人が，サマルカンド[3]の職人に製紙の技術を伝えたというものもある。中央アジアでは4世紀にすでに紙が使われていたが，製紙の技術を確立するにはかなりの時間がかかったことは事実である。ただし中央アジアで確立された製紙法の特徴は，布くずだけを原料にして上質の紙を作ったことにある。中国でも製紙の材料として布くずを使っていたが，それはあくまで補助原料であり，主原料は桑・籐・竹などの植物の繊維であった。

その後，製紙技術はサマルカンドからアラブへと伝わり，イスラーム教徒[4]の手でヨーロッパへと渡っていった。当時の製紙場は騒音と悪臭を放っていた。ぼろ

布の繊維を細かく砕くためには，水車を利用したドロップ・ハンマーが利用され，そのため製紙場は常にこのハンマーがたてる雷のような騒音に満ちていた。また，紙の原料となる亜麻布や大麻布等のぼろ布は，繊維をほぐすためにアンモニアにひたされていた。アンモニアの手っ取り早い供給源は人間の尿であり，製紙場の周りはすさまじい悪臭に包まれていた。

紙が作られる前から印刷の初期的形態は存在していただろうが，紙が普及するにつれ，印刷の技術も発展していった。木版印刷も活版印刷も中国人の発明であるとされているが，中国で発展したのは木版印刷のほうであった。中国や日本のような漢字を使う文化では，数万におよぶ漢字の活字を作成・使用することは，あまりにも手間のかかる作業であった。活版印刷の技術が飛躍的に発展したのはヨーロッパにおいてであった。ドイツ[5]人のグーテンベルクが活版印刷で作成した初の書籍である『四十二行聖書』はあまりにも有名である。

印刷技術はその後，ヨーロッパ諸国に広まっていったが，宗教改革がその普及を後押ししたといえるかもしれない。マルティン＝ルターの九十五カ条の論題は，当初はラテン語で書かれたが，ほどなくドイツ語版が刷られ，これが人々の手に広く行き渡っていった。やがて印刷技術と製紙技術は，新大陸へと渡っていくことになる。羅針盤を利用した遠洋航海が，こうした技術の普及を後押ししていったことはいうまでもない。

避雷針を考案したことで有名なベンジャミン＝フランクリンは，もともとイギリスの北アメリカ植民地で印刷業にかかわり，新聞の発行で成功した人物であった。北アメリカ植民地が独立運動を激化させた原因のひとつに，1765年の印紙法[6]がある。これは植民地で印刷されたほとんどあらゆる刊行物に，本国発行の印紙を貼ることを義務づける法律であった。いかに印刷物が人々の生活に欠かせないものになっていたかを象徴する出来事である。

印刷物の普及により，紙に対する需要が拡大すると製紙法にも数々の改良技術がもたらされた。しかし紙を量産するためのネックとなっていたのは，技術ではなく，紙の原料であった。紙の原料としては，あいかわらず亜麻布や大麻布のぼろ布が使われていたのである。この問題解決のきっかけとなったのは，フランスの科学者[7]のレオミュール(1683－1757)が18世紀初頭に発表したスズメバチの研

究であった。その内容は，アメリカのスズメバチが木の繊維を抽出して紙のような素材でできた巣を作っているというものであった。しかし，このアイデアが実用化されるのは，製紙の原料として木材パルプが利用される19世紀になってからであった。20世紀になると，カナダ，ブラジル，東南アジア[8]等の森林資源が破壊されていることが問題となり，大量の紙の消費もその一因と考えられている。二酸化炭素削減のためにも，森林保護は重要な課題である。

紙は文字や絵画を描く書写素材として利用されたが，武器として使用される例もあった。火薬も中国人の発明とされているが，銃に一発分の火薬と銃弾を装填するために使用されたのが，紙製薬莢（かっもきょう）であった。この紙製薬莢がもとで，19世紀，イギリスのインド植民地で大反乱がおこった。銃に弾丸と火薬を装填するときには，紙製薬莢の端を口でちぎる必要があった。ところが紙製薬莢には潤滑剤として蜜蝋のほかに獣脂，すなわちヒンドゥー教徒が神聖視する牛の脂やイスラーム教徒が忌み嫌う豚の脂肪であるラードが使われているという噂があった。イギリス東インド会社[9]に雇われたヒンドゥー教徒やイスラーム教徒の傭兵が不満を抱えるのは当然のことであった。

日本では製紙の原料としてぼろ布を使うことは普及せず，楮（こうぞ）・三椏（みつまた）等の繊維の長い植物が利用され，和紙という独特の紙を生産した。第二次世界大戦[10]の末期，日本軍はこの和紙を使って奇想天外な武器を作りだした。この武器は「ふ号」という暗号名がつけられたが，この「ふ」は風船の「ふ」である。すなわち日本軍が開発したのは，和紙で作られた気球に爆弾を搭載し，ジェット気流にのせて太平洋を横断させ，アメリカ本土を爆撃する風船爆弾であった。この武器は実際に生産・使用され，アメリカ本土にまで到達した。

コンピューターが発達し，電子書籍等の新しい媒体も生まれてきている現在，ペーパーレス時代の到来ともいわれているが，紙への需要はそう簡単にはなくならないであろう。

問 1　下線部1に関連して，宦官として知られている人物の名前を次のなかから選びなさい。

A　李斯
B　安禄山
C　張陵
D　鄭和

問 2　下線部2に関連して，ペルガモンが栄えたヘレニズム時代について述べた文として，もっとも適切なものを次のなかから選びなさい。

A　アルサケスがセレウコス朝から独立してバクトリアを建国した。
B　フィリッポス2世がカイロネイアの戦いでペルシアを破った。
C　ピタゴラスは万物の根元を数とした。
D　クレオパトラはプトレマイオス朝最後のエジプト女王であった。

問 3　下線部3に関連して，この戦いの名称を次のなかから選びなさい。

A　ニコポリスの戦い
B　プラタイアの戦い
C　ニハーヴァンドの戦い
D　タラス河畔の戦い

問 4　下線部4に関連して，イスラーム世界について述べた文として，もっとも適切なものを次のなかから選びなさい。

A　ムハンマドは622年にメディナに移住したが，これをヒジュラ（聖遷）という。
B　ムハンマドはメディナにあったカーバ神殿をイスラーム教の聖殿と定めた。
C　661年，ムアーウィヤはミスルを首都としてウマイヤ朝を開いた。
D　ムスリムの信仰と行為の基本をまとめたものが六行五信である。

問 5　下線部 5 に関連して，ドイツ観念論哲学について述べた文として，**誤っているもの**を次のなかから選びなさい。

A　カントは人間の認識能力に根本的な反省を加え，批判哲学を展開した。

B　フィヒテは自我の意思を強調する主観的観念論を説いた。

C　ヘーゲルの弁証法哲学はマルクスによって批判的に継承された。

D　キェルケゴールはヘーゲル哲学を批判し，実証主義哲学を体系化した。

問 6　下線部 6 に関連して，アメリカ独立革命にかかわる事柄について述べた文として，もっとも適切なものを次のなかから選びなさい。

A　1776 年 7 月 4 日，13 植民地の代表はボストンで独立宣言を発表した。

B　ハンガリーのコシューシコは独立軍に参加し，ワシントンの副官として活躍した。

C　武装中立同盟は，アメリカ独立戦争時にロシアの女帝エカチェリーナ 2 世の提唱で結成された。

D　アメリカ連邦議会では下院の権限が重視され，上院は条約の批准権などの権限をもたなかった。

問 7　下線部 7 に関連して，18・19 世紀のフランスの科学者について述べた文として，**誤っているもの**を次のなかから選びなさい。

A　ラヴォワジェが燃焼理論を確立し，質量保存の法則をうちたてた。

B　リンネが植物の分類学を確立した。

C　ラプラースが宇宙進化論をとなえた。

D　パストゥールが，自然発生説を否定した。

問 8　下線部 8 に関連して，20 世紀の東南アジアの民族運動について述べた文として，もっとも適切なものを次のなかから選びなさい。

A　インドネシアでは，イスラーム同盟(サレカット＝イスラーム)が民族運動を主導した。

B　フィリピンでは，アギナルドが参加したフィリピン革命がはじまった。

C　タイでは，知識人が主体となってブディ＝ウトモという民族運動の団体が結成された。

D　カンボジアでは，タキン党とよばれる急進的民族主義者が台頭した。

問 9　下線部 9 に関連して，イギリスのインド支配について述べた文として，誤っているものを次のなかから選びなさい。

A　インド南部や西部でライヤットワーリー制を導入した。

B　1813 年に，イギリス東インド会社の独占権が，中国貿易・茶貿易に関する独占をのぞき，廃止された。

C　シク戦争の勝利により，イギリスはパンジャーブを併合した。

D　インドの旧地方王権である藩王国は，イギリスのインド帝国成立とともに廃止された。

問10　下線部 10 に関連して，第二次世界大戦の末期について述べた文として，もっとも適切なものを次のなかから選びなさい。

A　ローズヴェルト・チャーチル・スターリンのカイロ会談で，第二戦線問題について協議された。

B　ローズヴェルト・チャーチル・蔣介石のテヘラン会談で，対日戦の基本方針が協議された。

C　ローズヴェルト・チャーチル・スターリンのヤルタ会談で，連合軍の北フランス上陸作戦が協議された。

D　チャーチル(途中からアトリー)・トルーマン・スターリンのポツダム会談で，敗戦国ドイツや日本の処理などが協議された。

〔Ⅳ〕 次の文章をよく読み，下線(1～10)に関連するそれぞれの問(1～10)にもっとも適するもの(1～4)の中から一つ選び，解答欄にマークしなさい。

ジャン＝シャルダン(1643－1713)という人物がいる。彼はパリの裕福な宝石商の家に生まれ，宝飾品の売り込みのために東方へ何度か旅行した。イスファハーン[1]には二度行っているし，インド[2]まで足を延ばしたこともある。その経験を彼はいくつかの旅行記に著している。

彼は商売だけではなく，東方の文化に大きな関心を持ち，ペルシア[3]語にも堪能だった。彼の東方を見る眼は，偏見に曇らされてはいない。イスラーム[4]教については，貢物さえ出せば「あらゆる宗教に寛容」であると認め，ペルシア人は，異教に対して「寛大」で「宗教に関して公正」であるとほめたたえている。

ペルシアの寛大さをほめたたえる彼は，フランス[5]で新教徒の迫害にあい，イギリス[6]に移住する。逃れてきたほかのユグノー[7]たちに，シャルダンは援助を惜しまなかったし，迫害されていたプロテスタント[8]の一派とされるヴァルド派への送金業務なども担当した。彼の旅行記は，18世紀の啓蒙思想家[9]たちに大きな刺激を与えることになる。

問 1 下線部1に関連して，サファヴィー朝について述べた文として，もっとも適切なものを選びなさい。

1 建国の土台となったのは，神秘主義教団である。

2 サファヴィー朝の創設者イスマーイールが，イマームのモスクを建設させた。

by. アッバース1世

3 16世紀末にタブリーズに遷都した。

4 国家宗教は，スンニ派の最大宗派十二イマーム派だった。

→シーア派

問 2 下線部2に関連して，イギリスとフランスのインド進出について述べた文として，誤っているものを選びなさい。

1 マドラスは，イギリスのインド進出の拠点の一つとなった。

2 クライヴは，プラッシーの戦いでイギリスが勝利を得るのに貢献した。

3 デュプレクスは，イギリスのインド総督を務めた。

→フランス

4 シャンデルナゴルは，フランスの東インド会社の拠点だった。

問 3 下線部3に関連して，アケメネス朝ペルシアについて述べた文として，もっとも適切なものを選びなさい。

1 ダレイオス1世は，ペルセポリスを破壊した。

→アレクサンドロス大王

2 サルデスは，首都だったことがある。× スサかペルセポリス

3 スサは，地中海進出のための拠点であった。スサはペルシア湾付近

→サルデス

4 アフラ＝マズダを最高神とするゾロアスター教が信じられていた。

問 4 下線部4に関連して，イスラーム化したインドおよびアフリカについて述べた文として，もっとも適切なものを選びなさい。

1 ソンガイ王国のマンサ＝ムーサ王は，盛大なメッカ巡礼を行った。

→マリ王国

2 カネム＝ボルヌー王国は，11世紀末頃にイスラーム教を受け入れた。

3 インド最古の大モスクの塔クトゥブ＝ミナールは，トゥグルク朝時代に建設された。

奴隷王朝のアイバクが建築

4 ゴール朝は，ガズナ朝によって滅ぼされた。

1215、ホラズム

問 5 同じく下線部4に関連して，9世紀から12世紀のイスラーム教圏における学問や文化活動について述べた文として，誤っているものを選びなさい。

1 歴史書を書いたタバリーは，バグダードで活躍した。－9C後半

2 フィルドゥシーが，『シャー＝ナーメ』を完成させた。－ガズナ朝時代(10C末～11C初の人)

3 イブン＝ハルドゥーンが，『世界史序説』を執筆した。－14Cの人

4 ガザーリーは，ニザーミーヤ学院で教授した。

→セルジューク朝時代，11C末に活躍

問 6　下線部 5 に関連して，18 世紀のフランスについて述べた文として，もっとも適切なものを選びなさい。

1　財務総監テュルゴーが，保守主義的な改革を行ったため，罷免された。

2　1787 年の名士会は，三部会開催を拒否した。

3　シェイエスは，『第三身分とは何か』で，身分制度を擁護した。

4　フランス革命中に，聖職者が公務員化された。

問 7　下線部 6 に関連して，17 世紀のイギリスで起こった出来事について述べた文として，**誤っているもの**を選びなさい。

1　チャールズ 1 世が処刑された。

2　スコットランドの反乱が起こった。

3　イングランドとスコットランドが合同して，大ブリテン王国が成立した。

4　カトリック以外の非国教徒に信仰の自由を与える寛容法が成立した。

問 8　下線部 7 に関連して，ユグノー戦争期のフランスについて述べた文として，もっとも適切なものを選びなさい。

1　サンバルテルミの虐殺によって，多数のカトリック信者が殺害された。

2　ボーダンが，『国家論』で，主権という概念を初めて定式化した。

3　カトリーヌ＝ド＝メディシスが，アンリ 2 世の摂政として活動した。

4　ラブレーが，『エセー』を執筆した。

問 9　下線部 8 について述べた文として，**誤っているもの**を選びなさい。

1　ツヴィングリは，チューリヒで宗教改革を進めた。

2　カルヴァンは，『キリスト教綱要』を出版した。

3　ノックスは，アイルランドの宗教改革運動に尽力した。

4　ミュンツァーは，ドイツ農民戦争の指導者となった。

問10　下線部 9 に関連して，17－18 世紀の思想家や哲学者ついて述べた文としてもっとも適切なものを選びなさい。

1　パスカルは，『方法叙説』を書いた。

2　ヴォルテールが，『人間不平等起源論』を書いた。

3　スピノザが単子論を主張した。

4　ヒュームが，すべてのものの存在を疑う懐疑主義を説いた。

〔Ⅴ〕　三十年戦争について，3 行以内で説明しなさい。